

ACANTHUS NEWS



平成16年 2004. 1
月刊アカンサスニュース
金沢大学広報紙 第86号

「イグ・ノーベル賞」受賞の広瀬教授 科学のおもしろさを語る

TOP NEWS

12月20日、市民らを対象に「イグ・ノーベル賞」受賞の理学部広瀬幸雄教授が講演した。当日は大寒波が押し寄せ、寒風吹き荒れる天候にもかかわらず、市民ら約150名が参加し、教授のユーモアあふれる講演に聴き入った。

広瀬教授は、日常生活の中から様々なアイデアのヒントを得ていることを語り、「科学はおもしろいもの。そして、単純でわかりやすいのがいい」と話し、参加した市民らをうなずかせた。



軽妙な語り口の広瀬教授の講演に聴き入る市民ら＝石川県立生涯学習センター



あいさつする林学長＝事務局大会議室

大きな変化に対応できる 基盤の強化を

林勇二郎学長は1月5日、部局長等を前に年頭のあいさつを行い、「世界中の大学が改革の真っ只中であって、いよいよ4月、日本も国立大学が法人化する。どんな変化にも対応できる基礎・基盤の強化が大切であり、今こそ教員と職員が一層協力し合って、基礎科学も応用科学も大切に新しい大学づくりに努めてほしい」と述べた。

巻頭言

国立大学法人化で思うこと



工学部長
岡島 厚

この正月休みに、「大学の理念」（玉川大学出版部）を読んだ。この本は、1986年から87年にかけて、ドイツ・ハイデルブルグ大学創立600年祭の記念行事として行われた講演会で、ドイツを代表する6人の学者が、新しい大学像を求めて講演した内容を編集し出版されたものである。この本が目にとまったのは、かの大学と関係の深い哲学者カール・ヤスパースの論文「大学の理念」（1946）と同じタイトルであること、そして法人化後の本学、とりわけ工学部の未来像はどうあるべきかということが、いま非常に気になっているためである。

17年前、ドイツでは学生数の増大による少数エリート大学から大衆大学への移行にともなって、教育と研究のレベル低下の危機に直面していた。一方、今日の日本では、就学人口の減少と国立大学の法人化に対応して、大学には

個性豊かで国際競争力ある教育研究の質的充実を図る大きな改革が要求されている。

国立大学法人化は大学人にとって初めての経験であり、今日の混沌とした状況の中からは、大学の未来像はなかなか見えてこないことも事実である。しかしこのようなときこそ、カール・ヤスパースの言葉を引用すると、「われわれの心底からの真剣さだけが可能なものを実現できる」わけで、「大学の理念を自らの中にもつ者だけが大学のために問題に即して考え、活動することができる」ことになる。

今年は、国立大学法人金沢大学の元年という本学の歴史において極めて記念すべき年であり、このような難しい時期に、この場に対峙し、曲がりなりにも大学の理念を自らの中にもつ者として、本学のために問題に即して真剣に考え、活動することができることを、むしろ喜びと考えたい。

最後に、「ものづくり」教育の重要性はいうまでもないが、かの哲学者の「単なる知識と能力の伝承が、全人の精神形成を求めている真理の理解に不十分であるとすれば、人間形成が教育と研究の意義である」という言葉も、これからの工学教育において決して忘れてはならないことと思う。

目次

「イグ・ノーベル賞」受賞の広瀬教授		留学生センター日本語教育短期研修	
科学のおもしろさを語る	1	「日本語教育における文法の役割」を考える	5
大きな変化に対応できる基盤の強化を	1	法科大学院、出願倍率11.8倍に	6
巻頭言 国立大学法人化で思うこと	2	剣道部、中村さん初優勝・相場さん2連覇	
北陸先端大との研究交流会	3	—第3回全日本学生剣道オープン大会—	6
ノーベル賞受賞のハント博士が講演	3	留学生センター外部評価を実施	6
白山市タウン・ミーティング		計報	6
—「手取川流域のあした」—	4	地域こうけんメルマガ「地域とともに」発信	7
経済産業省の補助金獲得を目指し説明会		学内での禁煙、広がる	7
—技術移転、産業創出を図る—	4	病院精神科・小児科でクリスマス	7
環日本海の研究者が情報交換		こころの病気はこわくない	7
—地盤災害軽減についてシンポー—	4	里山自然学校の活動を紹介	7
教養教育機構公開講演会		収穫を祝ってもちつき —角間の里山自然学校—	8
DV(ドメスティック・バイオレンス)を知っていますか		キャンパス点描	8
—DVのない社会に—	5	編集後記	8
外国語教育研究センター講演会			
熊本大学における英語教育	5		

トピックス

北陸先端大との
研究交流会

12月10日、本学と北陸先端科学技術大学院大学との第3回研究交流会が開かれた。交流会では、両大学から8名の研究者が発表し、教職員、学生ら約80名の参加者が、共同研究などの手がかりを求めて真剣に聴き入った。



研究発表する本学 金岡千嘉男教授＝インキュベーション施設

両大学が、教育研究の
連携支援について協定

また、同日、両大学の教員等からなる教育研究グループの活動を連携事業として認知するとともに、教育研究費の一部をそれぞれの大学から支援する教育研究連携協定が締結された。



協定書を交す先端大 吉原経太郎副学長（右）と本学中村信一副学長（左）＝同上

ノーベル賞受賞のハント博士が講演

薬学部は12月3日、医学部十全講堂において、2001年ノーベル医学・生理学賞を受賞した英国がん研究所のティモシー・ハント博士を迎え、「生命と細胞周期」と題して特別講演会を開催した。会場に詰め掛けた約200名の教職員・学生らは、熱心に耳を傾けた。



講演するハント博士

12月のニュース

白山市タウン・ミーティング — 「手取川流域のあした」 —



地域貢献推進事業を紹介する水野昭憲地域貢献コーディネーター

地域貢献推進事業の一環として12月15日、鶴来町「横町うらら館」で、白山市タウン・ミーティングが開かれ、市民や行政関係者約60名と中村副学長、大学関係者ら15名が意見を交した。

ミーティングでは、文学部神谷浩夫教授、利酒師きまざけしの小見麻利子氏、白山連峰合衆国の辻貴弘氏による地域文化の掘り起こしやまちづくりに関する話題提供があった。意見交換では地域住民らから、ダムによる川の濁り対策への協力、歴史と文化の見直しと活用、地域行事への学生参加、地域の求める人材育成など、大学への要望や意見が多く出された。

経済産業省の補助金獲得を目指し説明会

— 技術移転、産業創出を図る —

12月15日、大学が持つ研究成果等技術シーズの産業界への技術移転を促進し、新規産業の創出を図ることを目的とした経済産業省の補助金等に関する説明会が開催され、教職員及び企業関係者等約50名が参加した。

説明会では、中部経済産業局産業技術課中川量幾技術企画室長から「中部地域における研究開発・産学官連携の現状と主な助成施策」について、概要説明と申請にあたってのポイントの解説等があり、引き続き具体的な内容に関する質疑応答があった。

申請のポイントについて説明する中川室長
＝工学部秀峯会館中会議室

環日本海の研究者が情報交換

— 地盤災害軽減についてシンポジウム —

12月19日、日本海域研究所の主催で国際シンポジウム「日本海域における地盤災害軽減に関するシンポジウム」が開催された。シンポジウムでは、中国、韓国、台湾、日本から出席した研究者が、各国における自然現象や開発に伴う地盤災害の状況、その影響、軽減策などについて発表し、意見交換を行った。

仁川空港建設に伴う地盤災害について報告する韓国の研究者
＝工学部秀峯会館中会議室

教養教育機構 公開講演会

DV(ドメスティック・バイオレンス)を知っていますか —DVのない社会に—

教養教育機構は12月2日、学生を対象に、
本学名誉教授で、石川おんなのスペース代表
の深川明子氏による講演会を開催した。教養
教育機構は毎年1～2回、学生を対象とする講
演会を行っており、今回は、人権週間にあわ
せて人権問題の講演会が企画された。

深川氏は、最近話題になっているDVについ
て、DVの起こる背景、DV防止法の問題点、
二次被害防止のための被害者支援などにつ
いて講演した。



講演する深川名誉教授＝総合教育棟B3講義室



講演する里見助教授＝総合教育棟大会議室

外国語教育研究センター講演会 熊本大学における英語教育

外国語教育研究センターは12月12日、FD研修の一環とし
て、熊本大学里見繁美文学部助教授による講演会を行った。
里見助教授は、熊本大学におけるCALL授業（Computer-
Assisted Language Learning＝コンピュータ支援型言語学
習）の1年次必修化による学生のモチベーションの向上と、
授業設計の困難さを指摘し、今後見込まれる本学の言語教育
改革への示唆となった。

留学生センター日本語教育短期研修 「日本語教育における文法の役割」を考える

留学生センターは12月14日、国立国語研究
所と共催で日本語教育短期研修を行った。研修
では、広島大学白川博之助教授と国立国語研究
所井上優主任研究員の講演、パネルディスカッ
ションが行われ、参加した日本語教育の関係者
ら67名が日本語教育のために必要とされる文
法について考え、教育現場における具体的問題
について意見交換した。

パネルディスカッション
＝金沢大学サテライト・プラザ集会室



12月のニュース

法科大学院，出願倍率11.8倍に



出願を受け付ける職員

＝12月15日，文学部・法学部・経済学部第2会議室

4月から開校する法科大学院（法務研究科）の出願受付が，12月15日から24日行われ，出願者数は標準コース（3年）が285人，短縮コース（2年）が188人，計473人，志願倍率は11.8倍となった。これを受け，中島史雄法学部長は「多くの受験生に志望していただき大変うれしい。期待に応えるべく決意を新たに努める」とコメントを発表した。入試は小論文試験が1月31日に，短縮コース志願者の筆記試験が2月1日，同口述試験が2月29日に行われる。

剣道部，中村さん初優勝 相場さん2連覇 －第3回全日本学生剣道オープン大会－

11月30日，金沢市総合体育館で行われた第3回全日本学生剣道オープン大会で，剣道部の中村瞳さん（写真前列右から3人目）が女子2段の部で初優勝，相場ののぶさん（同2人目）が三段以上の部で2連覇を果たした。この他の部員も，それぞれ参加した部で2位1名，3位4名と優秀な成績を収めた。



成績の報告に訪れた部員ら＝12月10日，学長室

留学生センター外部評価を実施



報告する委員ら＝事務局大会議室

タフツ大学チャールズ井上教授が講演

また，外部評価の一環として12月12日，外部評価委員に委嘱した米国タフツ大学チャールズ井上教授による「協定校から見た留学生教育・交流のあり方」と題する講演会が行われた。

留学生センターは14年度に行った自己点検評価に基づき，今年度外部評価を行い，12月6日，外部評価全体報告会を開催した。

当日は，外部評価委員による施設視察，ヒアリングの後，報告会において留学生教育，支援体制，留学生センターの在り方等に関して，委員から報告があった。



講演する井上教授＝同上



訃報

ここに，謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

1月3日 逝去

医学系研究科大久保一良客員教授

享年65歳

地域こうけんメルマガ 「地域とともに」発信



地域貢献推進室は12月19日、第1号のメルマガジンを発信した。このメルマガは、本学の地域貢献活動を学内外に広報するもので、地域貢献活動の最新情報、

イベント情報などを月2回（不定期）発信する。

このメルマガの登録は、金沢大学の社会連携・地域貢献のページから。

http://www.ad.kanazawa-u.ac.jp/ad_chiiki/index.htm

病院精神科・小児科でクリスマス

12月16日、病院精神科病棟でクリスマス会が開かれ、患者によるハンドベル演奏、合唱、スタッフによる管弦楽演奏、そしてスタッフ扮するサンタやトナカイがクリスマス会を盛り上げた。

また、12月18日、小児科病棟においてもクリスマス会が開かれ、ジェスチャーゲーム、合唱など楽しいひとときの後、

財団法人済美会の提供によるプレゼントが子どもたち一人ひとりに配られ、笑顔あふれる一日となった。



サンタからプレゼントを受け取る子ども
=12月18日、小児科病棟

学内での禁煙，広がる

9月の病院敷地内禁煙に続いて、1月から事務局、大学会館が建物内禁煙、医学系研究科、保健学科、がん研究所が敷地内禁煙となった。健康増進法の施行や人事院指針を受け、学生と教職員の健康を保持増進し、快適な学習、職場環境づくりを推進するために、実施されたもの。



医学系研究科とがん研究所
内で掲示された禁煙ポスター(左)



保健学科校内に貼られた禁煙掲示

こころの病気はこわくない

学生・教職員をはじめ広く市民を対象に、心の病気に関する様々な知識を得て、日常生活を明るく健康なものにしてもらおうと、12月11日、大学教育開放センター主催によるビデオ・ライブラリー公開セミナー「こころの病気はこわくない」が始まった。セミナーは全5回の予定で、1月15、22、29日、2月5日に行われる。



説明する医学部附属病院 棟居俊夫講師
=大学教育開放センター講義室



展示に見入る学生=12月5日

里山自然学校の活動を紹介

11月20日～12月10日まで、附属図書館ロビーで角間の里山自然学校の活動を紹介する「角間の里山自然学校と里山メイトの活動&里山のいきものたち展」が開かれた。自然学校の活動内容についてのパネルに加え、里山メイトが角間の竹で焼いた竹炭や角間の里山で撮影した動植物の写真が展示された。角間の里山自然学校では、今後も同様の展示会を定期的に行うこととしている。

収穫を祝ってもちつき —角間の里山自然学校—



絶妙な手返してのもちつき（左）と参加者（右）

12月13日、北谷で収穫したもち米で餅つきをした。薪を割って火をおこし、かまどでお湯を沸かしてせいろで蒸す。蒸し上がった4升のお米を3回に分けて、うすときねでついた。未経験者はとまどいながら、経験者は昔を懐かしみながらの餅つき。つきあがったお餅はその



場できなこ、あんこ、しょうゆ、大根おろし、くるみをまぶしておいしく食べた。

今年の米作りは大成功に終わった。来年以降も続く水田復元プロジェクトは、角間から失われた棚田の復活を目指している。



建設が進む総合研究棟
=12月25日、角間キャンパス

トップライトを取り入れた総合
研究棟 I 内部

キャンパス点描

総合研究棟建設進む

角間キャンパス第II期計画事業による総合研究棟等の建設が進んでいる。自然科学研究科の生命薬学、医療薬学及び生物科学の各専攻が入る研究棟 I が1月末に、講義などを行う研究棟IVが2月末に完成し、薬学部及び理学部の一部が3月に引越しを行う予定である。

記事訂正

平成15年2003.12月刊アカンサスニュース第85号2頁の巻頭言本文中、右側6行目、「ヒト全ゲノムは3×109個の塩基配列から構成されている」と掲載しましたが、「3×10⁹個」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

編 集 後 記

昨年10月、生涯学習係に着任して早や3ヶ月が過ぎた。

大学教育開放センターでは、毎月、ミニ講演等市民らを対象とした講演を企画している。毎回、チラシ、電子メール等により広く市民にお知らせしているが、思うほど参加していただけない場合がある。当然のことながら、社会的ニーズを的確に捉え、その時のタイムリーなタイトル及び内容を提供すればと考えるのだが…。

本月号の紙面のトップに12月20日開催の講演内容を掲載した。市民ら150名が参加し、大変盛況であった。この勢いに乗って、今後も多数の市民に参加いただけるよう色々なアイデアを出し、知の拠点としての情報発信に少しでもお役に立てればと考える。

(O. S.)

平成16年1月16日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町
編集 金沢大学総務部企画広報室

TEL 076-264-5024
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」(愛称“KUPIS”(キューピーズ))
(アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>)でもご覧いただけます。
◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。